

子どもがよろこぶ「くすぐり遊び」。大好きな人が笑顔で遊んでくれるからうれしいのです。こ
とばを獲得中の乳児にとって、身体接触は養育者との大切なコミュニケーションのひとつ。笑顔
がはじける心地よい遊び体験は豊かな心身を育みます。たくさんしてあげるといいですね。

「くすぐり遊び」は人によって多少の「不快」要素もあります。子どもは誕生直後でも、満足
(快)や苦痛(不快)の感情を持っています。笑顔がない、楽しんでいない、嫌がっている、いやと
言っている。その時にはやめましょう。幼少時から「いや」を聞きいれてくれること、不快を不快と
分かってもらえることはとても大事です。

親でも誰であっても“子どもの嫌がることはしないこと”“嫌がればやめること”。そして“いや
な時は「いや」って言えること”“相手の「いや」を聞くことができること”。このような関係性はと
ても大事です。性犯罪の被害者にも加害者にもならないように子どもたちを守っていかなけれ
ばなりません。思春期以降の性的同意にもつながっていきます。

絵本「こちょこちょ ももんちゃん」。ももんちゃんが笑顔でやさしくお友達にこちょこちょ。お友
達も大好きなももんちゃんからのこちょこちょに笑顔いっぱい。くすぐりごっこって、お互いの笑顔
で楽しくなる遊びなのです。

「さわらせて」。「いぬさん ちょっと さわらせて」「いいよ せなか さわっていいよ」「ねこさん
ちょっと さわらせて」「くびなら いいわ」—。子どもたちが絵本の中の動物たちにもそっと触っ
てくれるように、色合いや触感を考えて作られた絵本です。触る前に「さわっていいですか」「い
いよ」、幼少時からこのやり取りが自然にできるようなコミュニケーションの取り方を子どもたち
に伝えていきたいものです。

小学生でも「くすぐり遊び」が好きな子は大勢います。お互いの笑顔でくすぐりごっこを楽し
みましょう。

「こちょこちょ ももんちゃん」

とよた かずひこ 作・絵

童心社

「さわらせて」

みやまつ ともみ 作

アリス館